

野辺地町統合小学校新築事業検討委員会

第8回会議 議事録

会議日	令和6年1月17日	会議時間	18:00	～	18:50
-----	-----------	------	-------	---	-------

出席者	合計 24 名	(うち委員 16名、事務局 5名、策定支援業務受託者 3名)
-----	---------	--------------------------------

案件

- 基本構想（案）の文言整理
- 概算事業費の確認
- 事業スケジュールの確認

議 事

【開会】

[事務局]/開会のあいさつ。

【案件 基本構想（案）の文言整理】

[委員長]

「皆さん、こんばんは。本来であれば新年のご挨拶をするところですが、能登半島の地震による被害があり早い復興を願うばかりでございます。日本に住んでいる以上は、こういった地震や災害を防ぐことはできませんので、基本構想、コンセプトに従って災害に強い安全な学校が新しい校舎でしっかり実現できるようにと強く思っています。

今回の案件は基本構想（案）の全体確認になります。今までこの会議で話し合ってきたことを事務局がフルバージョンとしてまとめましたので、それを今日皆さんとともに確認して、細かなニュアンスの調整であるとか加除修正をして完成させたいと思います。今まで話題にしてこなかった部分もございますので、事務局に全体の説明をお願いします。」

[事務局]/資料（最終案）基本構想について、以下の説明を行う。

- ・前半部分は第一回目の会議に使用したものから大きな変更はない。
- ・写真を数枚挿入してある。
- ・P23の想定事業費についてはまだ白紙のままであるが、現段階で令和4年4月の想定事業費よりも大きく上回る概算となっており更に今後の物価高騰による増額も見込まれる。

事業費のことを踏まえた上で、本基本構想を本会の検討結果として答申を行って良いものか、今一度お考え頂きたい。

[委員長]

「本来、今日は基本構想を見直して、完成版を作成するというのが作業の内容でしたが、事務局から事業費の高騰をかなり危惧しているという説明があり、その点を考慮して仮に今から見直しをしていくということは可能でしょうか。」

野辺地町統合小学校新築事業検討委員会

第8回会議 議事録

[事務局]

「可能です。来年秋ごろの設計発注に間に合う形であれば、策定期間が年度をまたぐことも可能です」

[委員長]

「それでは、早急にここで結論を出すのではなく、お金のことも含めて多少慎重な姿勢で知恵を出し合っていくということは可能とのことでした。

節約をするにはどこをどうすればいいというような方法があるのでしょうか。」

[事務局]

「いままで話し合っていた教室の面積について、もう一度検討して減らすというのが単純で効果的な方法にはなりません。また、別棟がいいとしていた放課後児童クラブの在り方についても、担当課の意見を聞きながら見直しをするのもいいかと思います。」

[委員長]

「お金の話ばかりになってしまいましたが、今日まず話し合っていかなければならないのが、基本構想の前半のコンセプトの辺りはそのままでいいか、また建物の造り自体お金に関わる部分についても見て頂いて、基本構想を見直すべきかどうかグループで意見を出し合って頂きたいと思います。何か確認したいことはございますか。」

[委員]

「話し合いの結果や資料はもれなくSNSなどでお知らせしているのでしょうか。」

[事務局]

「しています。」

[委員]

「基本方針にあるように、災害対策に関する教室や倉庫について話し合ったり、子供たちに指導学習するためのよそにはない先行事例となる教室を考えたり、基本方針を公表しているのであればそういったことも話し合うべきではないかと感じていました。」

[委員長]

「そういった点も含めて見直しをするべきかどうか、確認して頂けたらと思います。」

グループ討議実施

【Cグループの討議内容】

[委員]

「最初の基本構想に関しましてはこれまで通りで変更はありません。建物の構造を変えたらコストをカットできるかという所を検討しましたが、変わらないということでこれまで通りという意見になります。必要諸室について☆は確実に必要な部屋、△はあると良いということで見直していきましたが、なくてもいい部屋がありませんでした。体育館、アリーナを含め、すべての部屋を可能な限り少しずつ小さくするという意見で話し合いを終えたところです。」

野辺地町統合小学校新築事業検討委員会

第8回会議 議事録

【Bグループの討議内容】

[委員]

「前半の基本構想の部分は手を付ける部分はありませんでした。放課後児童クラブについては、校舎の中にあることを考えましたが、異なる組織に属しますので教室を共用するのは難しく専門の部屋は必要なのではないかということです。校舎の教室もこれ以上部屋数を減らすことは難しいので、例えば生活科室は1室にして将来空き教室ができたならそこを生活科室としたり、児童会室も年中つかうわけではないので会議室と共用にできるのではないかと、そういった視点で見なければいいのではないかとこの所です。

あとは部屋をちょっとずつ、3センチずつ小さくしていけばという意見もありました。」

【Aグループの討議内容(要約)】

[副委員長]

「まずはすべての諸室は必要であるということを前提とし、どうしてもというのであれば通級指導教室を減らせるかなと思います。

音楽室の“十分な楽器の収納庫の確保”のために広めに面積を取っているのであれば、中学校の方に楽器を置いてもらうと若干減らせるのではないかと考えました。

特別支援や低学年の子は教室の広さが学力にもつながっていきますので、なるべく検討して残して頂きたいということをお願いしたいです。」

[委員長]

「基本構想の10～16ページの前段部分については、まずはこれでよろしいでしょうか。」

[委員]

「よろしい。」

[委員長]

放課後児童クラブの話も出ていましたが、担当課の方から何かありますか。」

[事務局（健康づくり課）]

「放課後児童につきましては、子供たちが安全で使いやすい、ということをお願いしたいです。」

[委員長]

「学校職員の意見としましては、やはり別棟になるのが好ましいなという思いがあります。

今日は、まず基本構想は見直して行こうということではっきりしました。

次回は、事務局の方で作ってくれる資料を見ながら、またちょっと戻ったような話し合いになるかもしれませんが、よりよいものをお安い値段で子供たちに提供できないかという苦勞を皆さんと共にしていただくことになるのかなと思っています。

皆さんのご協力よろしくお願い致します。」

[事務局]/閉会の挨拶。次回の検討委員会の開催は未定。

追って会議の日程をお知らせすること。